

平成22年ホヤ類調査結果速報 No. 2

平成22年9月2日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

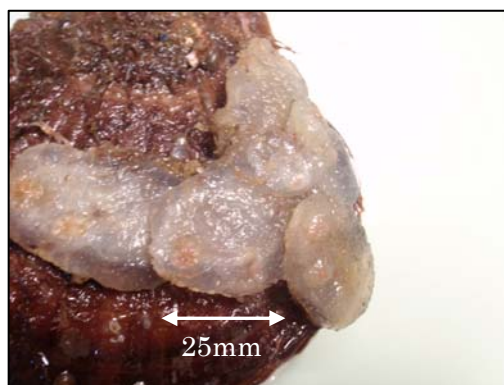
【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

8月24日に函館水産試験場が実施した（八雲地区定期調査）において、ホタテガイ付着生物およびヨーロッパザラボヤ幼生の調査を行いましたので、その結果をお知らせいたします。

結果概要

- ・ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着数が増加しています。また、30mmを超える個体も見られ、付着した稚ボヤの成長は早いと考えられます。
現在のところ、今年度のヨーロッパザラボヤ発生状況は、9月以降に付着が顕著となった一昨年（平成20年）と類似しています。
- ・今回の調査では、ヨーロッパザラボヤの半数以上が体長5mm未満であり、1mm未満の個体も含まれていました。前回調査と同様、浮遊幼生も出現していることから、ホタテガイへの付着は現在も継続していると推測されます。
- ・ヨーロッパザラボヤの付着が継続している状況で、ホタテガイの付着物を除去すると、新たなヨーロッパザラボヤの付着を促進する可能性があります。貝洗いについては、新たな付着が減少してから実施することが望ましいので、9月に実施が予定されている関係機関（指導所、水試）の調査結果を参考として検討してください。

耳吊ホタテガイに付着したヨーロッパザラボヤ) 平成22年8月24日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場
TEL：0138-57-5998 FAX：0138-57-5991

1 : 函館水産試験場付着生物調査結果

〔調査月日：8月24日、調査場所：八雲沖 水深32m、上中下層 各5枚〕

ホタテガイ1枚あたりのヨーロッパザラボヤの付着数は平均27.4個体でした(表1)。前回調査時(平均2.2個体)から大きく増加しています。また、体長30mmを超える個体も見られました(図1-2)。ヨーロッパザラボヤの付着が本格化するとともに、付着した個体の成長は早く、今後、付着重量が増加すると予測されます。9月以降にヨーロッパザラボヤの付着が顕在化した一昨年(平成20年)と類似した状況にあると思われます。

図1-1. 耳吊ホタテガイの状態(八雲地区：平成22年8月24日)

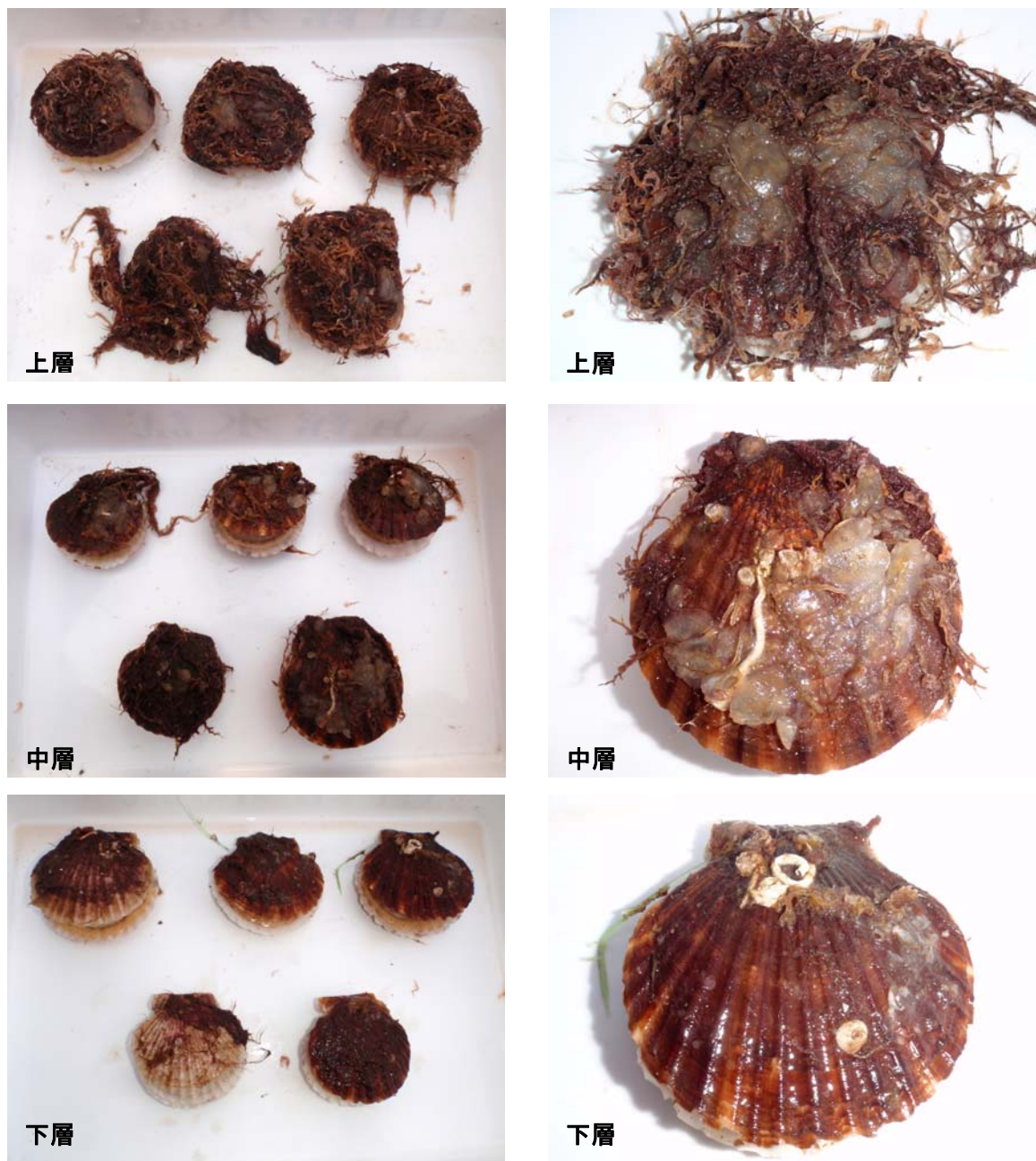
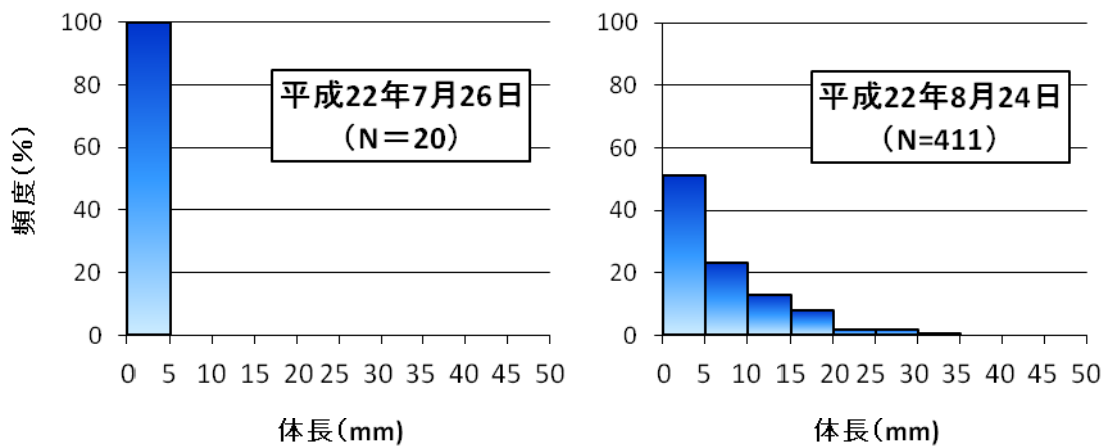


表 1. 付着生物調査結果（八雲地区：平成 22 年 8 月 24 日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層(N=5)	中層(N=5)	下層(N=5)	地区平均
全付着物	35.9g	12.8g	4.5g	17.7g
ヨーロッパザラボヤ	6.5g	4.2g	0.3g	3.6g
イガイ類	1.0g	0.1g未満	0.1g未満	0.3g
キヌマトイガイ	1.4g	0.3g	0.1g	0.6g
フジツボ類	1.2g	1.7g	1.4g	1.4g
ヒドロ虫類	24.4g	5.3g	0.9g	10.2g
ヨーロッパザラボの占める割合	18.0%	32.6%	6.0%	18.9%
ヨーロッパザラボヤ個体数	20.6個	34.4個	27.2個	27.4個
前年同時期のヨーロッパザラボヤ重量(H21.8.21調査)	80.5g	44.6g	52.7g	59.3g
前年同時期のヨーロッパザラボヤ個体数(H21.8.21調査)	90.7個	113.7個	133.7個	112.7個

図 1-2. ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成 22 年 7～8 月）

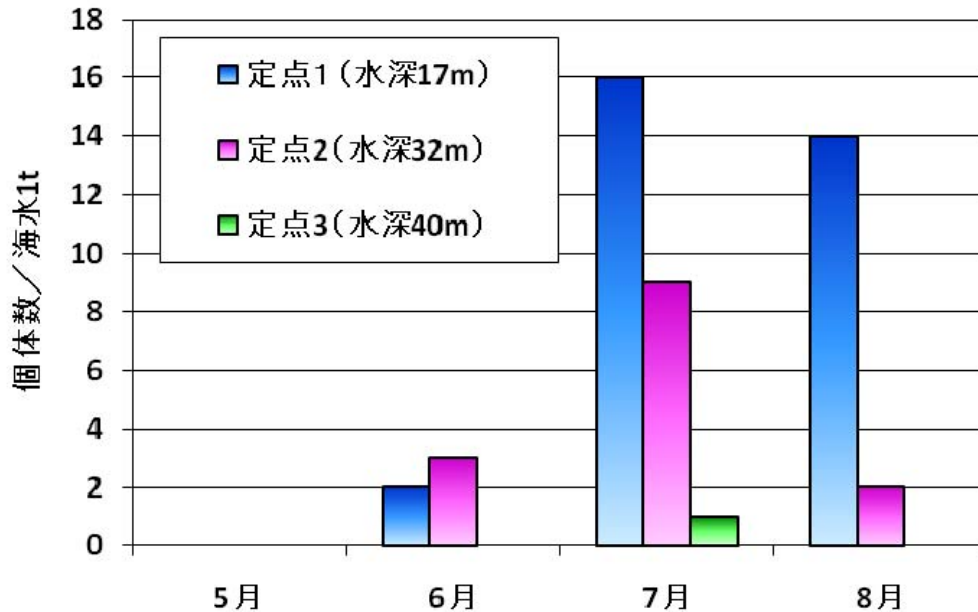


2：函館水産試験場ホヤ幼生調査結果

〔調査月日：8月24日、調査場所：八雲沖水深17m(離岸距離2.5km)、水深32m(離岸距離5.0km)、水深40m(離岸距離6.8km)〕

ヨーロッパザラボヤの幼生が水深17m地点で14個体/トン、水深32m地点で2個体/トン観察されました(図2)。水深40mでは観察されませんでした。ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生が出現していることから、引き続きホタテガイへの付着に注意が必要です。

図 2-1. ホヤ幼生調査結果（八雲地区：平成 22 年 5 月～8 月）



3：調査を実施した地区の状況について（まとめ）

（平成 22 年 8 月 24 日）

○八雲地区

ヨーロッパザラボヤの付着数が増加しています。5 mm未満の個体が多く、今後、成長にともない付着重量が増加すると見込まれます。また、ホヤ幼生の出現も先月に続き確認されていることから、付着数も今後、増加する可能性が高いと思われます。

昨年と比較するとヨーロッパザラボヤの付着時期が遅く、付着重量の増加が遅れています。依然、ヨーロッパザラボヤの新たな付着が生じるおそれがあることから、貝洗いの実施時期は、昨年より遅らせた方が効果的だと考えられます。

4：噴火湾のザラボヤについて（参考）

平成 20 年に噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着し、問題となっている「ザラボヤ」は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが、東邦大学と函館水産試験場の共同研究で明らかとなりました。在来種と区別するため、本速報ではヨーロッパザラボヤという名称を用いています。

和名：ヨーロッパザラボヤ
学名：アスキジエラ・アスペルサ
Ascidella aspersa (Müller 1776)
原産地：大西洋（北欧～北西アフリカ沿岸）、
バルト海および地中海

